

(参考1)

指定管理鳥獣の指定について

イノシシ及びニホンジカについては、全国的に生息数が著しく増加するとともに、生息地の範囲が拡大しており、それに伴い、生活環境、農林水産業又は生態系に深刻な被害を及ぼしている。このため、以下の状況を勘案して、集中的かつ広域的に管理を図る必要があることから、指定管理鳥獣に指定するものとする。

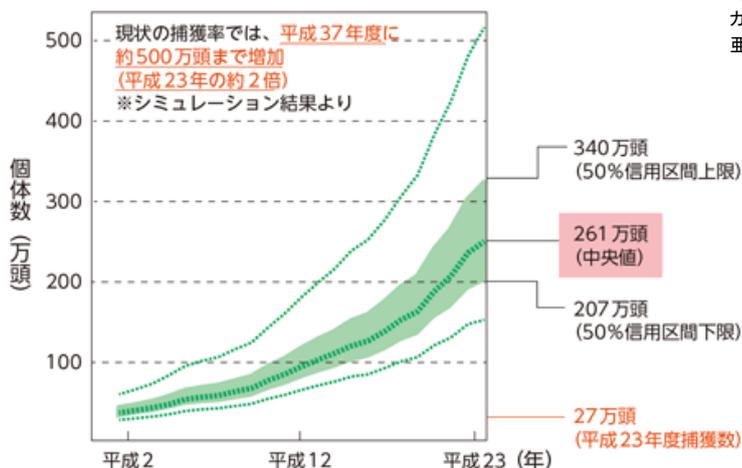
1. ニホンジカ

(1) 当該鳥獣の生息状況及びその将来予測

- 平成23年度の全国のニホンジカ(北海道を除く^{*})の生息数は、中央値で261万頭(90%信用区間は155万頭から549万頭)と推定。【図①】^{*}平成23年度の北海道の推定生息数は約64万頭
- 今後の生息数の動向のシミュレーションでは、現状の捕獲率(個体数に対する捕獲数の割合)を維持するとすれば、平成37年には中央値で約500万頭まで増加する見込み。
- 生息地の範囲は、1978年から2003年までの25年間で、全国の分布面積が約1.7倍に拡大し、その後も拡大中。【図②】

(2) 当該鳥獣による被害状況

- 全国31国立公園のうち20の国立公園で生態系等への被害が発生。
- 平成24年度のニホンジカによる農林水産業被害額は約82億円。森林被害面積は、9.1千haのうち、ニホンジカによる被害が全体の約7割を占める。

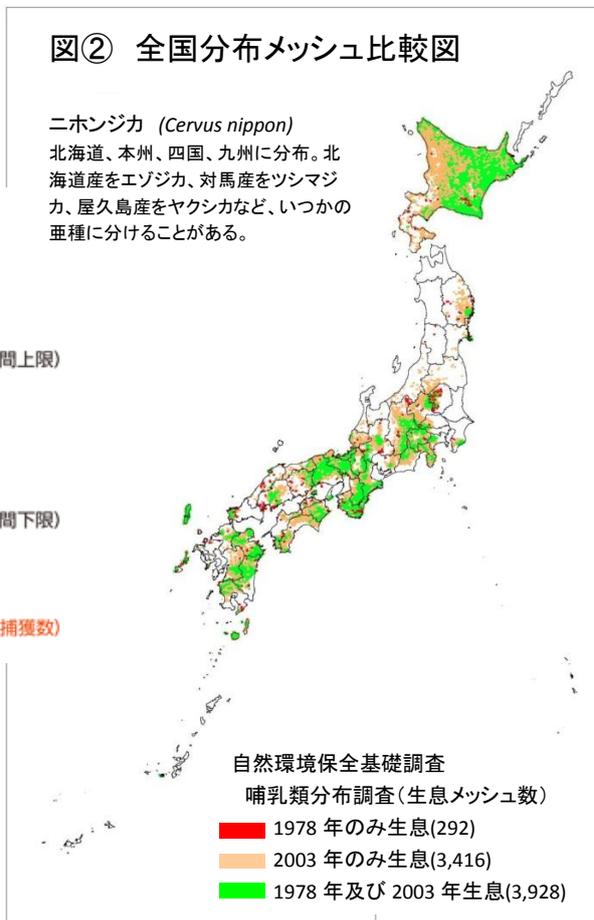


図①ニホンジカの個体数推定結果

(捕獲数等をもとに統計手法を用いて推定)

図② 全国分布メッシュ比較図

ニホンジカ (*Cervus nippon*)
北海道、本州、四国、九州に分布。北海道産をエゾジカ、対馬産をツシマジカ、屋久島産をヤクシカなど、いくつかの垂種に分けることがある。



(参考1)

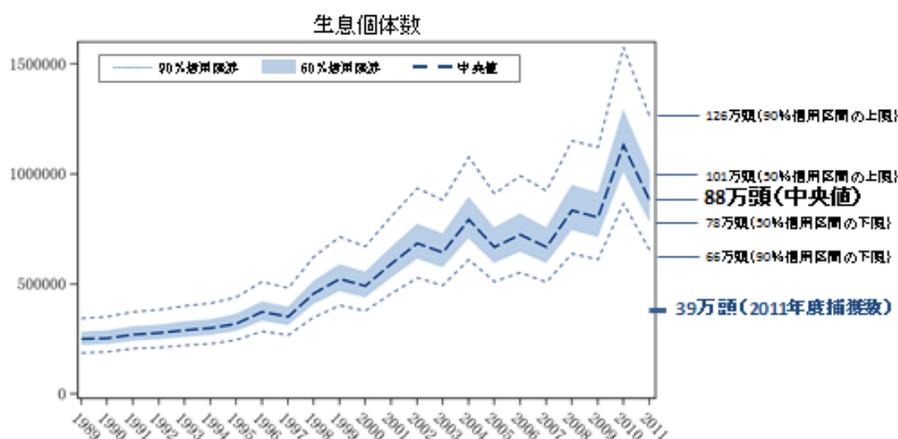
2. イノシシ

(1) 当該鳥獣の生息状況及びその将来予測

- ・平成23年度の全国のイノシシの生息数は、中央値で88万頭（90%信用区間は66万頭から126万頭）と推定。【図③】
- ・生息地の範囲は、1978年から2003年までの25年間で、全国の分布面積が約1.3倍に拡大し、その後も拡大中。【図④】

(2) 当該鳥獣による被害状況

- ・平成24年度のイノシシによる農林水産業被害額は約62億円。



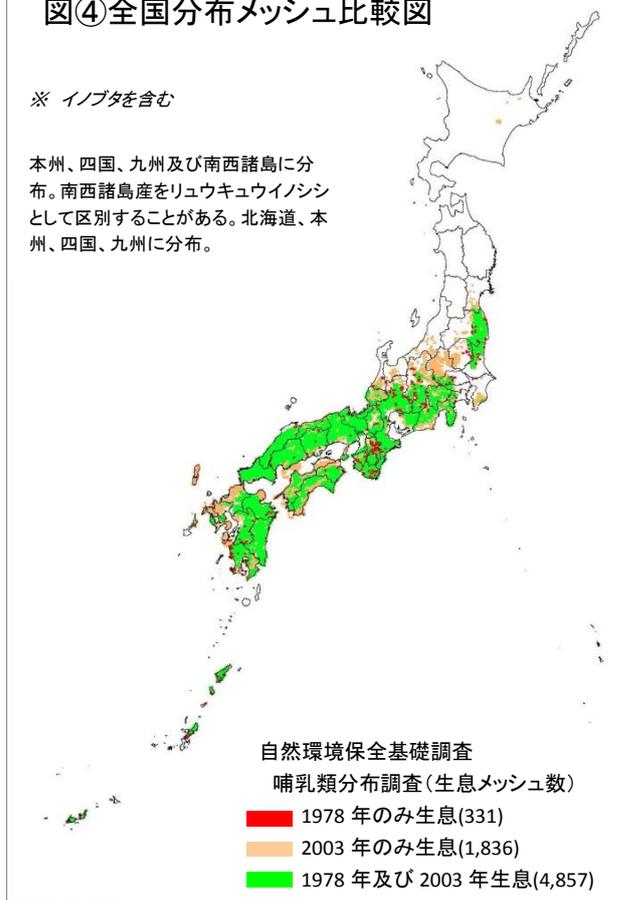
図③イノシシの個体数推定

(捕獲数等をもとに統計手法を用いて推定)

図④全国分布メッシュ比較図

※ イノブタを含む

本州、四国、九州及び南西諸島に分布。南西諸島産をリュウキュウイノシシとして区別することがある。北海道、本州、四国、九州に分布。



(注) 農林水産業被害額は農林水産省資料、森林被害面積は林野庁資料による。